

酒類ガイドライン遵守推進本部だより

ほろにかが

平成28年4月13日
全国卸売酒販組合中央会
酒類ガイドライン遵守推進本部

「これからの酒類市場を担う人材の育成」

委員 星 秀一

昨年の酒類課税数量はビールが前年比0.2%増、清酒が同2.0%減、乙類が同2.1%減、甲類が同3.6%減、ウイスキーが同1.8%増で、カテゴリにより明暗が分かれる結果となりましたが、合計は同0.2%増とほぼ横ばいとなりました。しかし、少子高齢化を背景にした市場の縮小は避けられず、来年は消費税増税も控えています。アベノミクスで明るい兆しが見えた国内経済も、平成27年の実質賃金は前年比0.9%減と4年連続でマイナスとなりました。政府が景気底上げに向けた経済対策を進めていますが、多くの消費者は景気回復の実感がもてず、節約志向は根強いままです。加えて、新興国経済の減速等を背景に、景気先行きは不透明とされています。

厳しい市場環境の中で、酒離れや飲酒量を減らさない為に、卸ができることは、良いお酒を楽しむ文化を醸成することだと考え、ワインアドバイザーなど、酒類に関する専門的知識を持った社員の育成を続けています。当社は武田薬品長兵衛商店（現在の武田薬品工業株）から洋酒・食料品部門を譲り受けて事業をはじめました。創業当時、洋酒の流通は薬種問屋ルートを通じて販売されており、飲用だけでなく、気付け薬や滋養栄養飲料としての需要も取り込みながら、国内の販路を広げていきました。創業から130年たった今も当時と同様に、専門的知識と、お酒への愛着をもった社員が、働く女性や、ご年配夫婦など、今の世帯構造に合わせた商品調達・流通提案を進めています。

最近では、お酒の分野でも価値志向型の商品が求められるようになりました。各社プレミアム商品を次々と発売されていますが、更に一歩踏み込んでハレの日に味わう最高に美味しいお酒をつくってもらいたいと、関係する方にお会いするたびにお願ひしています。少子高齢化の中では、良いお酒を楽しんで飲まれる方が、酒類市場を支えてくれる大きな存在になると考えています。